

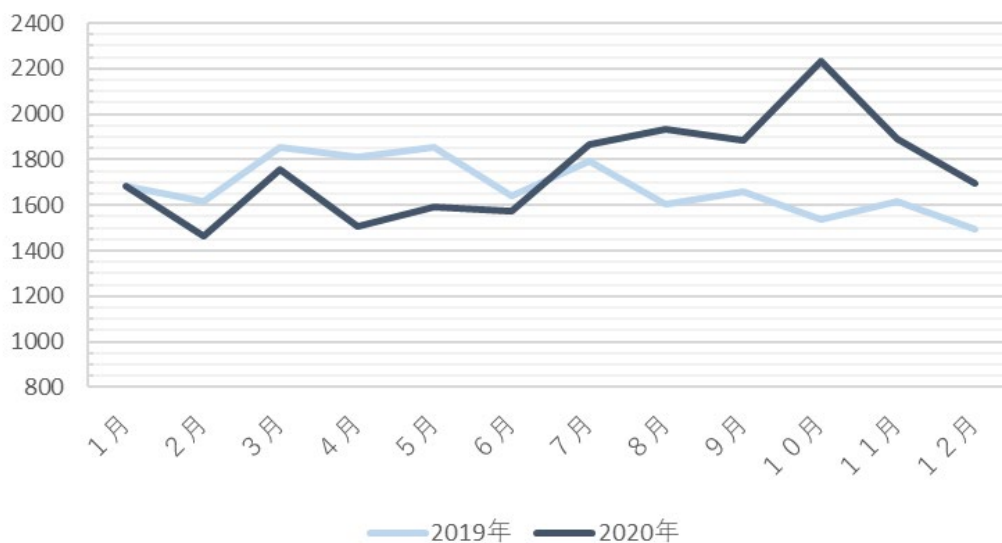
コロナ禍におけるストレスと超常現象の関係について

樋口 大樹 (文教大学情報学部メディア表現学科)

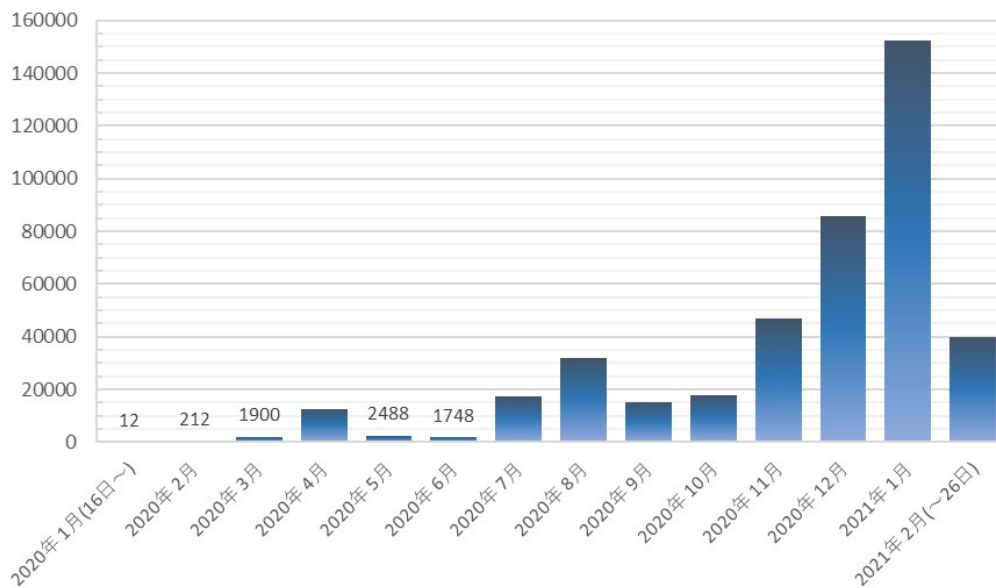
1. はじめに

2019年11月末に中国、武漢で発生が確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下「新型コロナウイルス」と称する）は世界的なパンデミックとなった。2021年2月現在に至ってもなお収束の気配はなく、国内で“コロナ禍”と称されるや外出自粛や三密の回避など新しい生活様式への急速な変化が求められた。こうした感染予防への対応が問題となる中、急速な生活様式の変化や、その他社会不安が要因と考えられるストレス増加も問題となった。朝日新聞が行った世論調査⁽¹⁾によると、ストレスについて感染拡大後の生活の変化に対し、53%が「増えた」と答えた。自殺者数についても警視庁が発表したデータによれば、7月以降から前年に比べ大幅に増加している（図表-1）。また、厚生労働省が発表する国内の新型コロナウイルス感染陽性者数の推移（図表-2）と比較しても同じく右肩上がりの形が見られることから、新型コロナウイルスに起因する社会不安やストレスは一定の影響があるといえるだろう。

図表-1. 年間自殺者数推移の比較（人）



図表-2. 新型コロナウイルス国内陽性者数推移（人）



このような深刻な社会不安を象徴する陰謀論も飛び交った。東京では一部の団体が「コロナは嘘」だとして、マスクを外してPCR検査に抗議する集会を行った⁽²⁾。アメリカでは2020年11月3日に実施されたアメリカ合衆国大統領選において、SNSをはじめディープステート（闇の政府）が暗躍、政治システムを故意に操っているなどという言論が拡散され、大手マスコミまでも話題に取り上げるなど影響を及ぼした。しかしこうした陰謀論は当然賛否が分かれ、社会を分断する一面もあり、大手動画配信サイトYouTubeなどでは陰謀論を取り扱ったコンテンツの取り締まりを強化した。対して陰謀論と同列に語られることの多い都市伝説と呼ばれるコンテンツ、ジャンルは昨今ブームが再来しているといわれ、YouTubeやTwitter、その他SNSをはじめとしたインターネット上では都市伝説を扱ったコンテンツがトレンド入りするなど盛り上がりを見せている。

そこで狭義的な都市伝説の幅を広げた“超常現象”として、超常現象流行の背景にはストレスが関係しているのではないかという仮説のもと、その認知、関心とコロナ禍におけるストレスとの関係を調査するに至った。また、実際の超常現象の経験を聞き、これの要因分析も行う。超常現象の具体的な要素には、心霊現象や怪奇現象と呼ばれる事例から、娯楽的側面の強い都市伝説に分類される事例まで、筆者独自に選別、作成した。「アマビエ」など、昨今話題に挙がった例も“妖怪”として調査項目に加えた。幽霊は脳で見るといわれるように超常現象とされるものの多くが人間の抱えるストレスによるものだとするならば、超常現象に対する態度は社会不安（＝精神的負荷）を測る指標となり得るのか。新型コロナウイルス流行以降オンライン授業など学生生活環境に変化があった文教大学学生を対象に調査を行った。

2. 調査研究の方法

2-1. 調査概要

本調査の実施概要は以下の通りである。

- ・調査実施時期 : 2020年12月7日～20日(15日再送付)
- ・調査対象 : 文教大学越谷・湘南両キャンパス在学 1～4年生
- ・調査人数 : 標本数 521票 (内不在 22票)
有効回答数 154票 回収率 29.6%

2-2. 調査項目

調査項目は大別して、〈回答者自身に関する項目〉、〈新型コロナウイルス・ストレスに関する項目〉、〈宗教・非科学的な事物に対する態度に関する項目〉、〈超常現象に対する態度に関する項目〉。以上4つによって構成した。以下、主な項目詳細。

〈回答者自身に関する項目〉

「性別」や「性格傾向」等、基本的な項目に加え、ストレスとの関係を推察し「住まい形態」や「同居人数」の項目を設けた。また、「メディア接触」については「超常現象の認知・関心」との関係の分析を意図し設問した。

〈新型コロナウイルス・ストレスに関する項目〉

「新型コロナウイルス流行前後のストレス認識」に加え、「現在のストレス認識」、また「ストレス反応尺度」⁽³⁾によるストレスの測定も行った。また、「新型コロナウイルスに対する態度」に関する項目には、予防意識の問いのほか「納豆を食べる機会が増えた」など、現時点で科学的根拠が認められていないが、感染予防に効果的であると言われる事柄に対する態度を問う項目も設けた。

〈宗教・非科学的な事物に対する態度に関する項目〉

縁起や迷信などの俗習を含む事象や、目に見えない存在に対する態度に関する項目を設けた。ほか、自身あるいは周囲に信仰する宗教などがある場合では、ストレスに関係なく超常現象に関しての意識に影響があるのではないかと考え、設問した。

〈超常現象に対する態度に関する項目〉

回答者自身の「超常現象の経験」を問う項目をはじめ、家族など身近周囲の経験の有無、超常現象に対する認知、関心に関する項目を設けた。また、経験がある場合の肯定感、否定感、好奇心についても調査した。30項目にわたる具体的な超常現象例について

は、答えやすさの点から段階評定の指標を“気になるか”とした。例題項目の選定に関しては、大まかに幽霊やポルターガイストなどの心霊的要素、UFO や妖怪などの怪奇的要素、その他に宇宙人や口裂け女などの娯楽・都市伝說的要素からそれぞれ均等に選んだ。ただし明確な定義等がないので、あくまでも筆者の印象が多少なり影響してしまっていることは留意されたい。

2-3. 調査方法

調査票は Google フォームを利用し作成。サンプリングで抽出した該当者メールアドレスへ、調査票のハイパーリンクを添付したメールを送信。

サンプリング方法は学部ごとに層化抽出した後、等間隔系統抽出法を用いた。

以下、学部別割り当て詳細（図表-3）。

図表-3. 学部別の割り当て数と割合

学部名	学科名	在学者数	対象者数	割合
教育学部	学校教育課程	1570	94	32.4%
	心理教育課程			
文学部	日本語日本文学科	1566	94	32.3%
	英米語英米文学科			
	中国語中国文学科			
	外国語学科			
人間科学部	人間科学科	1715	103	35.4%
	臨床心理学科			
	心理学科			
情報学部	情報システム学科	1244	75	35.5%
	情報社会学科			
	メディア表現学科			
経営学部	経営学科	729	44	20.8%
国際学部	国際観光学科	1106	67	31.6%
	国際理解学科			
健康栄養学部	管理栄養学科	425	26	12.1%

※ 学籍番号からの推計学生数であり、実際の在学学生数とは異なる。

※ 対象者のうち、22名は送付エラー。

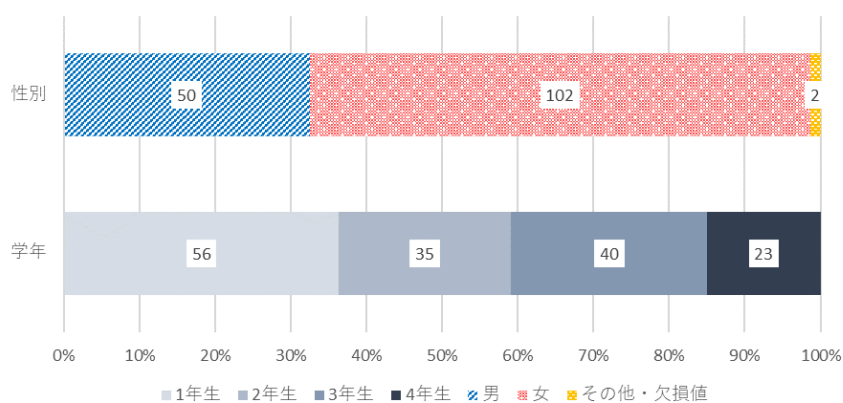
※ 卒業年次移行の学生や、学籍番号が特殊な留学生は含まれていない。

3. 調査結果

3-1. 回答者の基本属性

回答者の特性であるが、「性別」は、【女性】が6割強（102人、66.2%）で、「学年」は【1年生】の割合がやや多く（56人、36.4%）、対して【4年生】の割合がやや少ない（23人、14.9%）結果となった（図表-4 参照）。

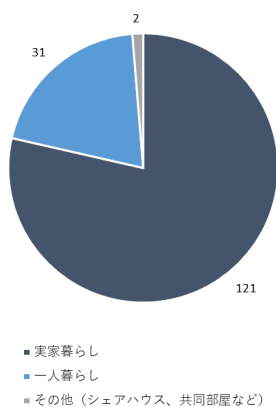
図表-4. 「性別」と「学年」の割合



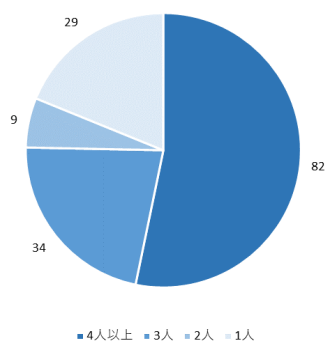
「住まい形態」は図表-5 の通り、【実家暮らし】が約8割程（121人、78.5%）で、「同居住人数」の結果に影響している（図表-6 参照）。

「出身地」については、越谷・湘南両キャンパスの所在地を含む関東地方に集中していた（割合上位順【埼玉県 神奈川県 東京都 千葉県】で全体に対して98人、63.6%）（図表-7 参照）。

図表-5. 「住まい形態」の内訳



図表-6. 「同居住人数」の内訳

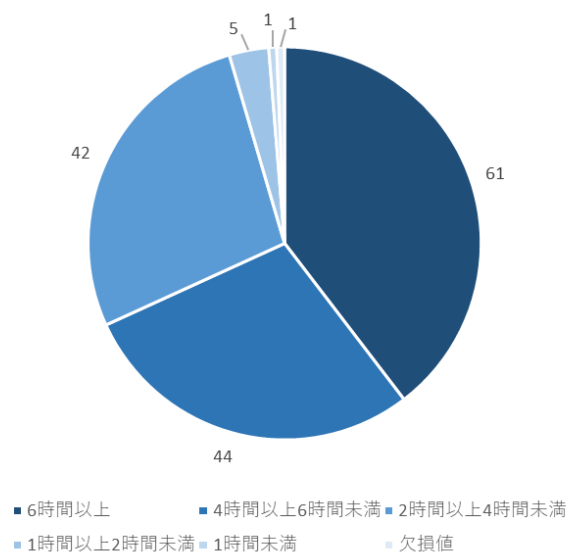


図表-7. 「出身地」の度数分布表

	度数	割合(%)	累積割合
埼玉県	44	28.6	28.6
神奈川県	31	20.1	48.7
東京都	12	7.8	56.5
千葉県	11	7.1	63.6
長野県	10	6.5	70.1
茨城県	7	4.5	74.7
栃木県	7	4.5	79.2
群馬県	7	4.5	83.8
宮城県	6	3.9	87.7
新潟県	6	3.9	91.6
山梨県	4	2.6	94.2
静岡県	3	1.9	96.1
山形県	1	0.6	96.8
福島県	1	0.6	97.4
愛知県	1	0.6	98.1
大阪府	1	0.6	98.7
長崎県	1	0.6	99.4
沖縄県	1	0.6	100
合計	154	100	

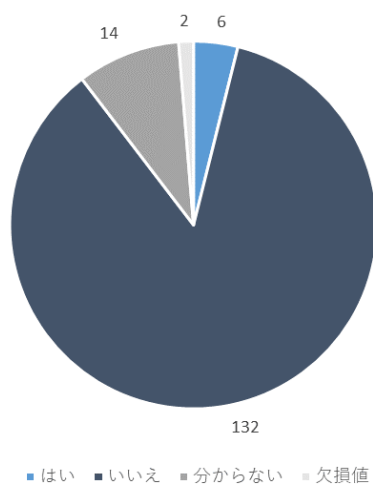
また、メディアの利用時間を示す「メディア接触」は図表-8の通り、全体の約7割が1日に4時間以上利用するという結果となり、日常的にメディアと接触していることが分かる。

図表-8. 「メディア接触」の内訳

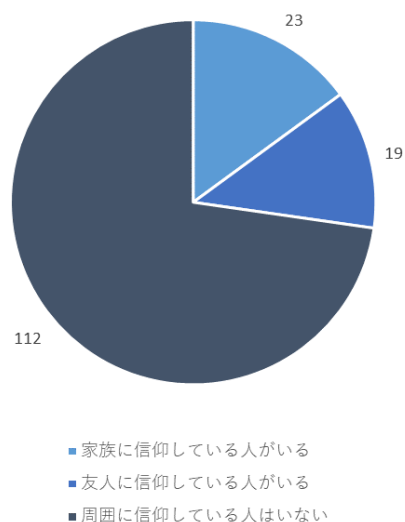


次いで「宗教所属の有無」について、【いいえ】が全体の 85.7% (132 人) (図表-9 参照)、「周囲の宗教所属者の有無」についても約 7 割 (112 人、72.7%) が【周囲に信仰している人はいない】(図表-10 参照) ことから、7~8 割の日本人は無信仰、無宗教である (渡辺.2011) と同様の結果となった。

図表-9. 「宗教所属の有無」の内訳



図表-10. 「周囲の宗教所属者の有無」の内訳

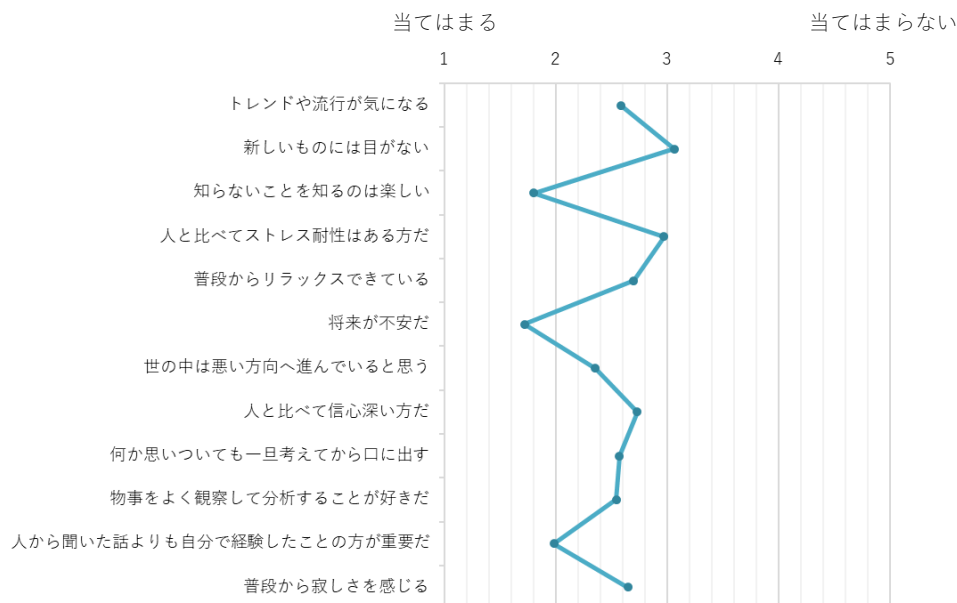


3-2. 回答者の性格傾向

回答者の大まかな性格の傾向を調べるため、回答者自身について 12 項目を【当てはまる】【どちらかという当てはまる】【どちらともいえない】【どちらかという当てはまらない】【当てはまらない】からなる五件法によって評定してもらい、それぞれの平均値を算出したところ図表-11 のような結果となった (1.0 に近づくほど意識が強い)。

最も大きく表れたのは「将来が不安だ」で 1.7。次いで「知らないことを知るのは楽しい」が 1.8 であった。対して「新しいものには目がない」が 3.1 と最も低い結果となった。

図表-11. 回答者の性格傾向



次にこの性格傾向がどのような因子を持つのか、バリマックス回転を用いて主成分分析による因子分析を行った。その結果図表-12 のように5つの因子に分類することが出来た。

第一因子には「世の中は悪い方向へ進んでいると思う」や「将来が不安だ」といった不安やネガティブな要素が高い因子寄与率で抽出された。第二因子には「知らないことを知るの楽しい」や「人と比べて信心深い方だ」といった実直さ、素直な性格を示す要素が抽出された。第三因子には「普段からリラックスできている」や「人と比べてストレス耐性はある方だ」といったストレスに関する因子が見受けられ、精神的な安定感や穏やかさが感じられる。第四因子では「何か思いついても一旦考えてから口に出す」や「物事をよく観察して分析することが好きだ」などの思考に関係する因子となった。

図表-12. 「性格傾向」の因子分析

項目	ネガティブ因子	素直因子	安定因子	好奇心因子	理知因子	平均値
世の中は悪い方向へ進んでいると思う	.817	-.116	.042	.017	-.096	2.36
将来が不安だ	.797	.067	-.088	-.005	.110	1.72
普段から寂しさを感じる	.604	.269	-.389	.161	-.017	2.65
知らないことを知るの楽しい	-.069	.746	.257	.166	.147	1.81
人から聞いた話よりも自分で経験したことの方が重要	.123	.706	.111	-.092	.231	1.99
人と比べて信心深い方だ	.030	.655	-.162	.157	-.144	2.73
普段からリラックスできている	-.089	.067	.877	.054	-.004	2.70
人と比べてストレス耐性はある方だ	-.066	.074	.827	.107	.060	2.97
トレンドや流行が気になる	-.132	.048	.031	.899	-.052	2.58
新しいものには目がない	-.044	.136	.121	.883	.078	3.06
何か思いついても一旦考えてから口に出す	.119	-.073	.087	-.014	.864	2.57
物事をよく観察して分析することが好きだ	-.163	.386	-.047	.055	.731	2.55
固有値	2.412	2.119	1.555	1.250	1.034	
寄与率	20.099	17.662	12.954	10.418	8.614	
累積寄与率						69.746

3-3. 新型コロナウイルスとストレスについて

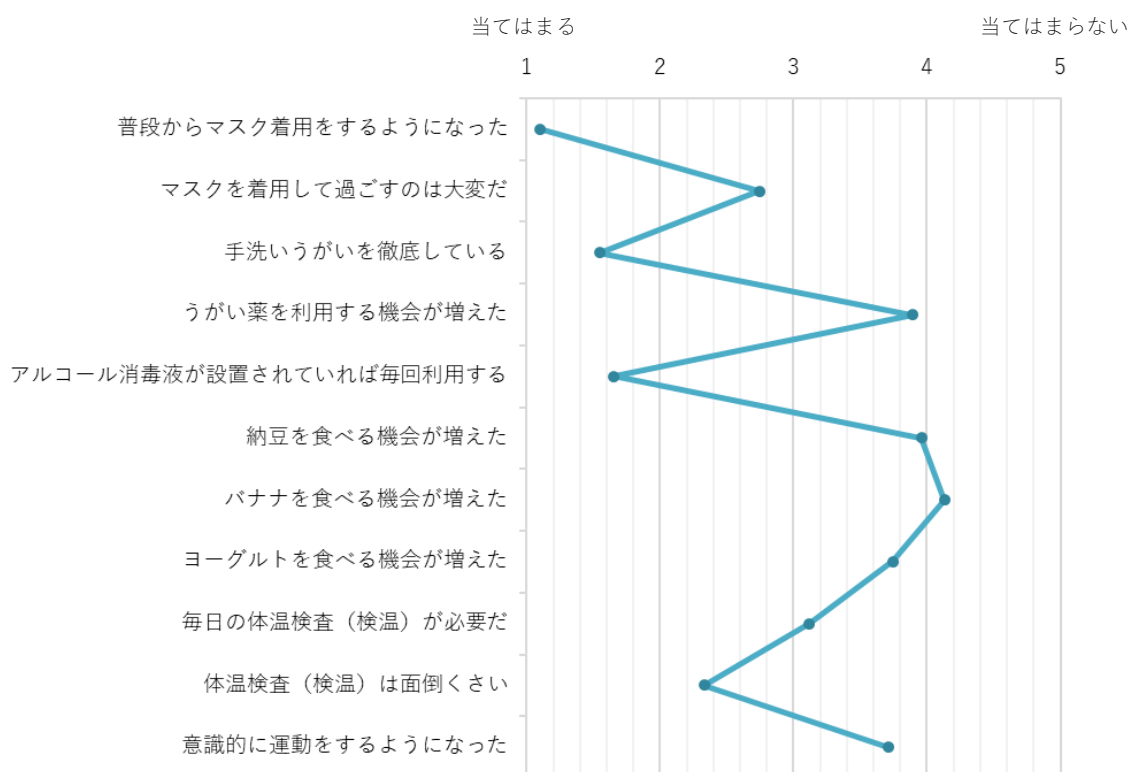
3-3-1. 新型コロナウイルスに対する態度

回答者の新型コロナウイルスに対する態度を調べるため、予防意識などを問う 11 項目を【当てはまる】【どちらかという当てはまる】【どちらともいえない】【どちらかという当てはまらない】【当てはまらない】の五件法によって評定してもらい、それぞれの平均値を算出したところ図表-13 のような結果となった（1.0 に近づくほど意識が強い）。

マスクの着用や手洗いうがいといった基本的な予防意識に対しては比較的強い意識が見られるのに対し、「バナナを食べる機会が増えた」や「うがい薬を利用する機会が増えた」などの感染予防に対して科学的根拠の薄いとされる項目への意識は弱く、常識的な態度を示している。

また、「体温検査（検温）は面倒くさい」（平均値 2.3）など予防対策に対する煩わしさを表す意識も程々見られた。

図表-13. 新型コロナウイルスに対する態度

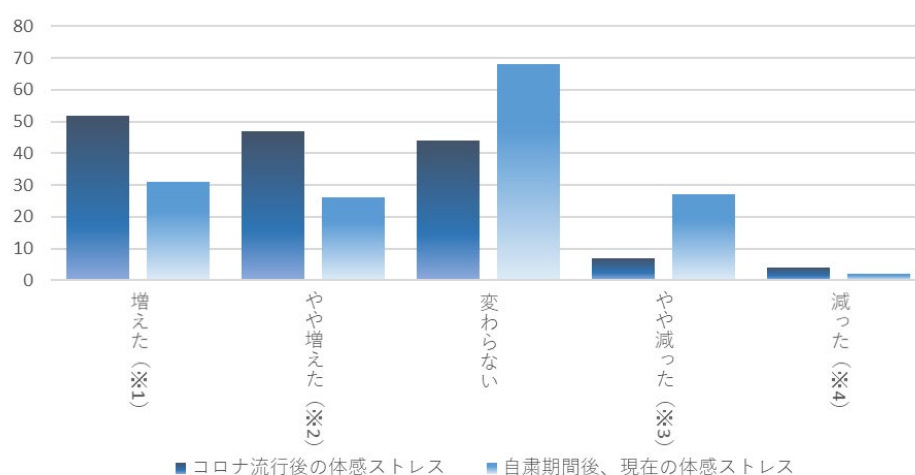


3-3-2. 回答者のストレス

回答者のストレスの認識を調査するため、新型コロナウイルス流行前後と緊急事態宣言解除にともなう自粛期間（2020年4月から5月末まで）明けから現在（2020年12月）のストレスの増減をそれぞれ自己評価してもらった。単純集計により以下のような結果が得られた（図表-14 参照）。

基本的にはストレスは増えた傾向にあり、自粛期間解除後もストレスは【変わらない】の答えが最も多かった（68人、44.2%）。

図表-14. 新型コロナウイルス流行前後と現在のストレス認識比較



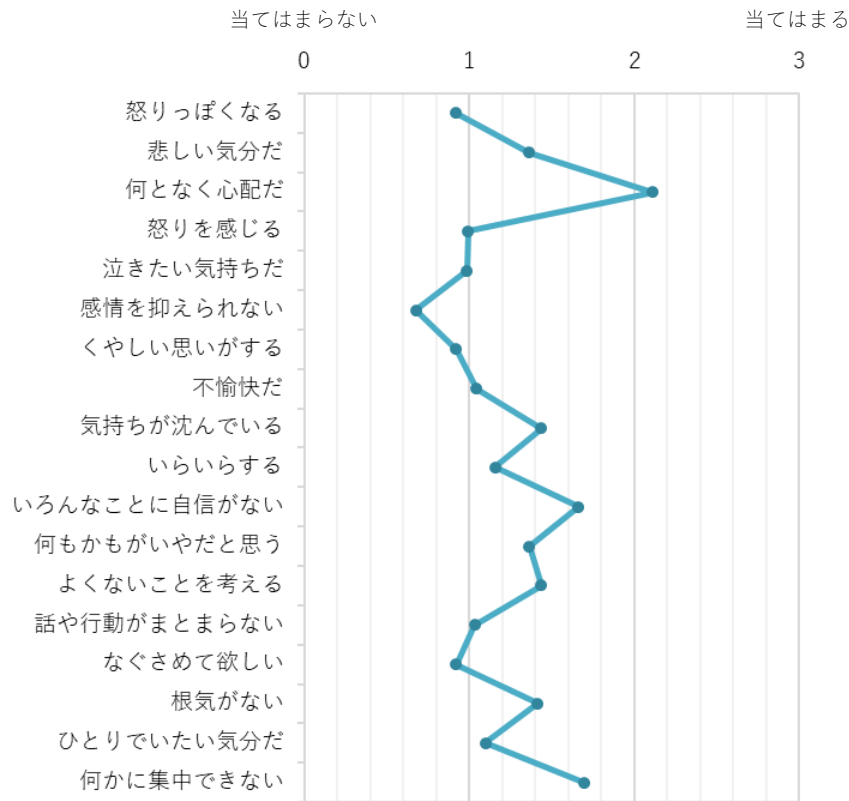
次に、鈴木らのストレス反応尺度⁽³⁾を用いてストレス得点の平均値を算出、分析した。

ストレス得点の平均値はやや少ない寄りの分散傾向があった。また、ストレスを非常に感じている人は全体的には少ない。

また、ストレス反応の項目ごとに【当てはまる】【どちらかという当てはまる】【どちらかという当てはまらない】【当てはまらない】の四件法による平均値の強さ（3.0に近づくほど意識が強い）を算出したところ、特に「何となく心配だ」が強い反応が見られた（平均値2.1）。また、無気力に種別される要素が多く見られた（図表-15 参照）。

以上から、新型コロナウイルス流行によってストレスは増えたと言え、要素としては不機嫌、怒りに近い種類のストレスを抱えていることが分かった。しかしストレスの大きさにはバラつきがあり、少ないもしくは程々が大半であり、過度なストレスを抱える人は比較的少なかった。

図表-15. ストレス反応



3-4. 超常現象の認知、関心について

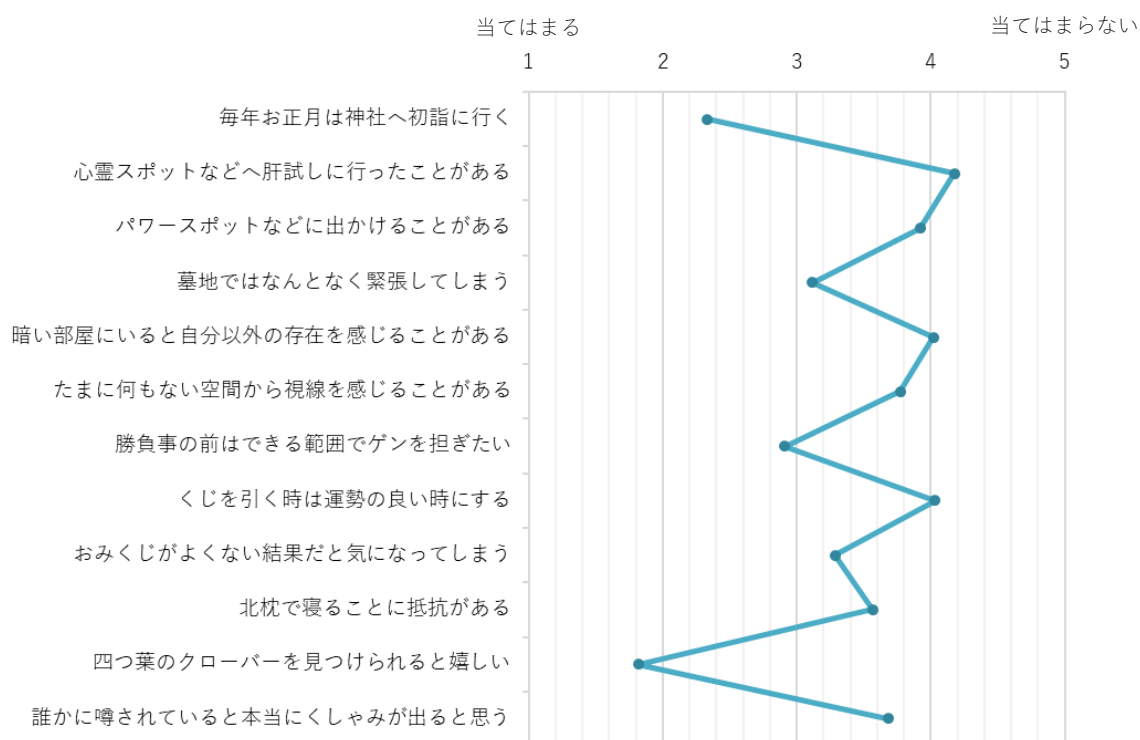
3-4-1. 非科学的な事物に対する態度

回答者の非科学的な事物に対する態度の傾向を調べるため、【当てはまる】【どちらかという当てはまる】【どちらともいえない】【どちらかという当てはまらない】【当てはまらない】の五件法によって評定してもらい、それぞれの平均値を算出したところ図表-16のような結果が得られた（1.0に近づくほど意識が強い）。

「四つ葉のクローバーを見つけられると嬉しい」が最も強い態度で、1.8。次いで「毎年お正月は神社へ初詣に行く」が2.3となった。対して「心霊スポットなどへ肝試しに行ったことがある」は4.2と最も弱い結果となった。

以上により、幼い頃から（と思われる）の風俗、習慣に対してはあまり抵抗が見られず、「くじを引く時は運勢の良い時にする」など自身の判断に由来する事項に対しては特出した影響はないと思われる。しかし「勝負の前はできる範囲でゲンを担ぎたい」が2.9と比較的強い結果となっていることから、縁起や迷信といった非科学的な存在を一切否定しているわけではなさそうである。

図表-16. 非科学的な事物に対する態度



3-4-2. 超常現象に対する認知・関心

回答者の超常現象に対する認知、関心を調べたところ、以下図表-17のような結果が得られた。【知っているし、興味がある】、【知っているが興味がない】など認知に関する割合は76.6%（118人）と高かった。【知っているし、興味がある】、【知らないが、興味がある】など興味関心に関する割合は45.5%（70人）であり、ほぼ半数弱が興味を持っていることが分かった。

図表-17. 「超常現象の認知・関心」の度数分布表

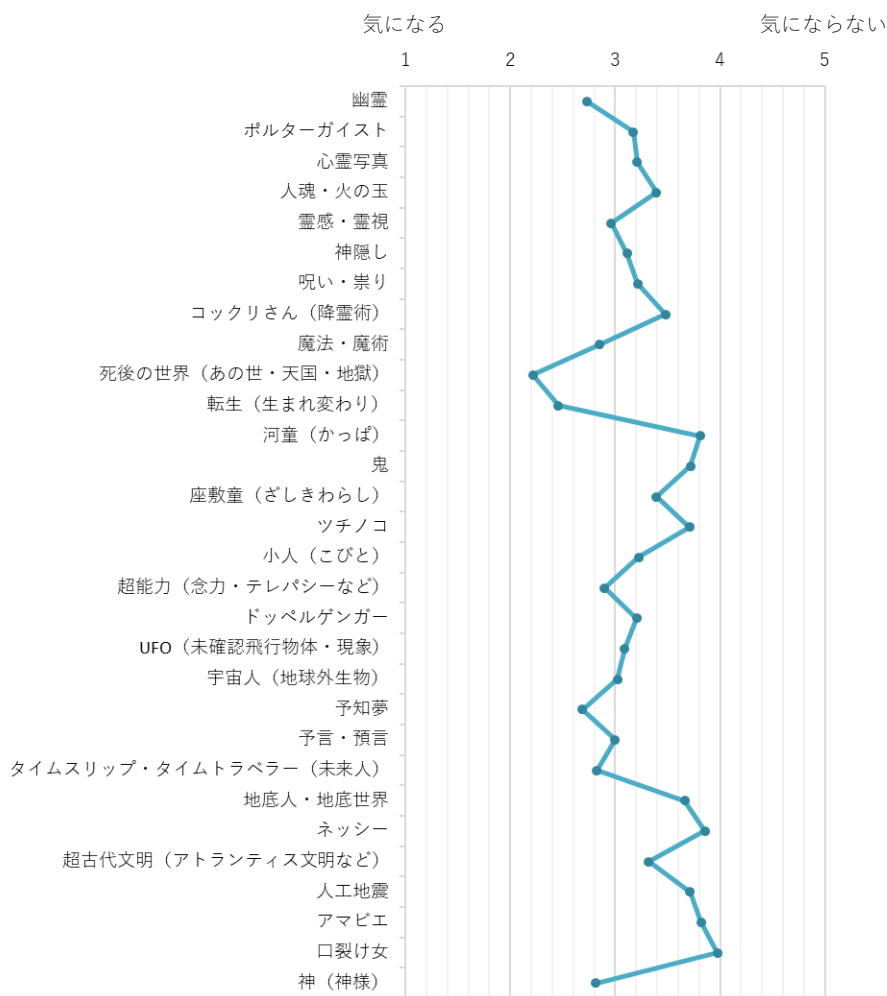
	度数	割合(%)	認知割合(%)	興味割合(%)
知っているし、興味がある	52	33.8	76.6	45.5
知っているが、興味がない	66	42.9		
知らないが、興味がある	18	11.7	22.7	53.9
知らないし、興味がない	17	11.0		
欠損値	1	0.6	0.6	0.6
合計	154	100	100	100

3-4-3. 超常現象の具体例に対する関心

回答者の具体的な超常現象例に対する関心の傾向を調べるため、具体例 30 項目を【気になる】【どちらかという気になる】【どちらともいえない】【どちらかという気にならない】【気にならない】からなる五件法によって評定してもらい、それぞれの平均値を算出したところ図表-18 のような結果となった（1.0 に近づくほど意識が強い）。

全体的に関心の有無の偏りは低い結果となったが、なかでも最も大きく表れたのは「死後の世界（あの世・天国・地獄）」で 2.2。次いで「転生（生まれ変わり）」が 2.5 であった。対して「口裂け女」が 4.0 と最も低い結果となった。また、疫病退散の古典的キャラクターとして妖怪「アマビエ」が昨今話題となっているが、平均値を見ると 3.8 と関心が低い結果となった。これは超常現象としてのアマビエの関心の低さ（アマビエの人気はあくまで創作キャラクターとするから）なのか、調査対象が若年層で構成されていることかなのか、あるいは世間の話題の大きさ自体が実はごく一部のものである可能性など、様々な要因が検討できる。

図表-18. 超常現象の具体例に対する関心



次にこの性格傾向がどのような因子を持つのか、バリマックス回転を用いて主成分分析による因子分析を行った。その結果図表-19 のように4つの因子に分類することが出来た。

第一因子には「心霊写真」や「ポルターガイスト」といった霊的な要素が高い因子寄与率で抽出されたので霊的因子と名付けた。第二因子には「ネッシー」や「アマビエ」、「ツチノコ」といった未確認生物あるいは現象を示す要素が抽出された。第三因子には「予知夢」や「転生（生まれ変わり）」など人間に関する因子が見受けられたため能力的因子とした。第四因子では「宇宙人（地球外生物）」、「UFO（未確認飛行物体・現象）」と、宇宙に関する因子となった。

図表-19. 「超常現象の具体例に対する関心」の因子分析

項目	霊的因子	未確認事物因子	能力的因子	宇宙因子	平均値
心霊写真	.804	.176	.171	.322	3.21
ポルターガイスト	.789	.203	.225	.272	3.17
靈感・霊視	.757	.185	.229	.103	2.96
幽霊	.753	.090	.239	.327	2.73
人魂・火の玉	.738	.309	.347	.074	3.39
呪い・祟り	.730	.329	.339	.112	3.22
コックリさん（降霊術）	.719	.395	.284	.071	3.48
座敷童（ざしきわらし）	.701	.396	.229	.175	3.39
神隠し	.608	.372	.420	.037	3.11
神（神様）	.530	.256	.422	-.154	2.81
ドッペルゲンガー	.525	.365	.498	.141	3.20
ネッシー	.126	.879	.243	.149	3.86
アマビエ	.229	.785	.188	.117	3.82
ツチノコ	.102	.769	.246	.123	3.71
口裂け女	.345	.760	.172	.213	3.97
地底人・地底世界	.248	.749	.181	.285	3.66
人工地震	.206	.741	.248	.195	3.71
河童（かっぱ）	.364	.719	.236	-.076	3.81
鬼	.483	.689	.238	-.091	3.72
超古代文明（アトランティス文明など）	.313	.537	.258	.270	3.32
予知夢	.246	.299	.775	.052	2.69
転生（生まれ変わり）	.165	.174	.734	.412	2.46
タイムスリップ・タイムトラベラー（未来人）	.291	.334	.679	.071	2.82
死後の世界（あの世・天国・地獄）	.363	.026	.677	.263	2.22
超能力（念力・テレパシーなど）	.395	.321	.663	.127	2.90
予言・預言	.419	.305	.590	.009	3.00
魔法・魔術	.179	.336	.565	.215	2.85
小人（こびと）	.440	.456	.472	.008	3.22
宇宙人（地球外生物）	.371	.366	.243	.715	3.02
UFO（未確認飛行物体・現象）	.306	.352	.317	.695	3.09
固有値	16.336	2.358	1.500	1.176	
寄与率	54.454	7.858	4.999	3.920	
累積寄与率				71.231	

3-4-4. 要因分析 メディア接触

回答者の「超常現象の認知・関心」と「メディア接触」の関連を示したのが、図表-20である。興味があると答えた人の方が、興味がないと答えた人に比べ、メディアの利用時間が長い傾向にあることが分かった。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は5%水準で有意であり、超常現象の認知・関心とメディア接触には、有意な関連が認められている。

図表-20. 「超常現象の認知・関心」と「メディア接触」のクロス集計表

超常現象の認知・関心	1日のメディア利用時間					合計
	6時間以上	4時間以上 6時間未満	2時間以上 4時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	
知っているし、興味がある	25 (48.1)	18 (34.6)	7 (13.5)	2 (3.8)	0(0.0)	52 (100)
知っているが、興味がない	24 (36.9)	14 (21.5)	24 (36.9)	3 (4.6)	0(0.0)	65 (100)
知らないが、興味がある	8 (44.4)	7 (38.9)	3 (16.7)	0 (0.0)	0(0.0)	18 (100)
知らないし、興味がない	3 (17.6)	5 (29.4)	8 (47.1)	0 (0.0)	1(5.9)	17 (100)
合計	60 (39.5)	44 (28.9)	42 (27.6)	5 (3.3)	1(0.7)	152 (100)

() 内は割合

$\chi^2 = 24.08, df = 12, p < .05$

3-4-5. 要因分析 ストレス

回答者の「超常現象の認知・関心」と「新型コロナウイルス流行前後のストレス認識」の関連を示したのが、図表-21である。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく超常現象の認知・関心と新型コロナウイルス流行前後のストレスの認識には、関連がないことが分かった。

図表-21. 「超常現象の認知・関心」と「新型コロナウイルス流行前後のストレス認識」のクロス集計表

超常現象の認知・関心	新型コロナウイルス流行前後のストレス認識					合計
	増えた (感じやすくなった)	どちらかというが増えた (やや感じやすくなった)	変わらない	どちらかというが減った (やや感じにくくなった)	減った (感じにくくなった)	
知っているし、興味がある	14 (26.9)	15 (28.8)	18 (34.6)	2 (3.8)	3(5.8)	52 (100)
知っているが、興味がない	30 (45.5)	16 (24.2)	16 (24.2)	4 (6.1)	0(0.0)	66 (100)
知らないが、興味がある	5 (27.8)	6 (33.3)	6 (33.3)	0 (0.0)	1(5.6)	18 (100)
知らないし、興味がない	3 (17.6)	10 (58.8)	3 (17.6)	1 (5.9)	0(0.0)	17 (100)
合計	52 (34.0)	47 (30.7)	43 (28.1)	7 (4.6)	4(2.6)	153 (100)

() 内は割合

$\chi^2 = 18.21, df = 12, N.S$

回答者の「超常現象の認知・関心」と「現在のストレス認識」の関連を示したのが、図表-22である。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく超常現象の認知・関心と自粛期間後の現在のストレス認識には、関連がないことが分かった。

図表-22. 「超常現象の認知・関心」と「現在のストレス認識」のクロス集計表

超常現象の認知・関心	現在のストレス認識					合計
	増えた (感じやすくなった)	どちらかという増えた (やや感じやすくなった)	変わらない	どちらかという減った (やや感じにくくなった)	減った (感じにくくなった)	
知っているし、興味がある	8 (15.4)	8 (15.4)	22 (42.3)	13 (25.0)	1(1.9)	52 (100)
知っているが、興味がない	16 (24.2)	13 (19.7)	28 (42.4)	9 (13.6)	0(0.0)	66 (100)
知らないが、興味がある	4 (22.2)	2 (11.1)	10 (55.6)	1 (5.6)	1(5.6)	18 (100)
知らないし、興味がない	3 (17.6)	3 (17.6)	7 (41.2)	4 (23.5)	0(0.0)	17 (100)
合計	31 (20.3)	26 (17.0)	67 (43.8)	27 (17.6)	2(1.3)	153 (100)

○ 内は割合

$\chi^2 = 10.34, df=12, N.S$

「超常現象の認知・関心」によって「ストレス平均得点」に差があるのかどうかを検討するため、ストレス反応尺度による平均得点を従属変数として、回答者の超常現象の経験の分散分析を行った（図表-23 参照）。その結果、有意な差は認められなかった（ $F(3,149)=0.12, N.S$ ）。

図表-23. 「超常現象の認知・関心」と「ストレス平均得点」の分散分析表

超常現象の認知・関心	度数	平均値	標準偏差	F値	自由度	有意確率
知っているし、興味がある	52	1.28	0.75	0.12	3, 149	.949
知っているが、興味がない	66	1.21	0.70			
知らないが、興味がある	18	1.22	0.64			
知らないし、興味がない	17	1.27	0.68			

上記の結果から、超常現象流行の背景にストレスが関係しているのではないかという仮説は実証できなかつた。

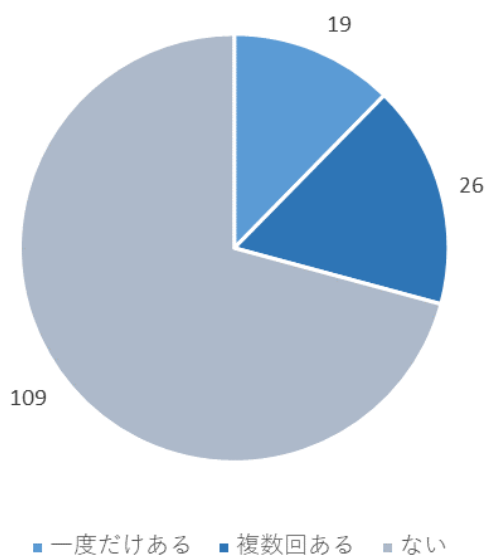
3-5. 超常現象の経験について

3-5-1. 超常現象の経験とそれに対する態度

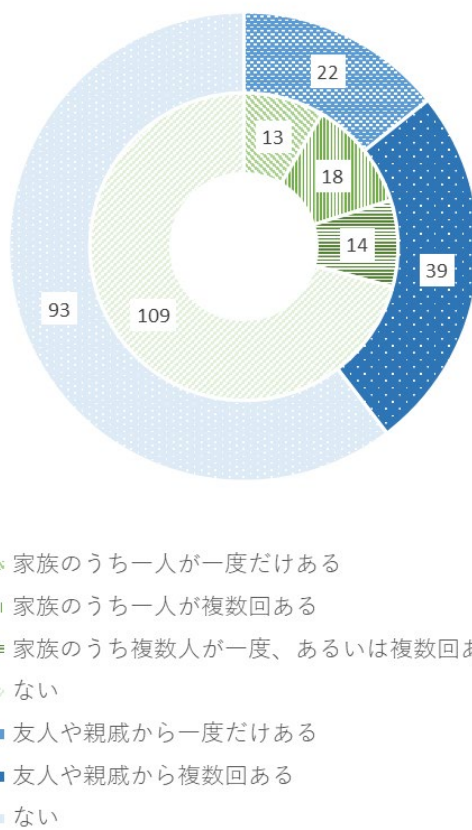
回答者自身の「超常現象の経験」を調査した。ただし経験事象が超常現象であるかは、あくまでも回答者の主観的判断である。結果は図表-24 のとおり約3割（45人、29.2%）が一回以上の経験があると答えた。

また、家族や友人、親戚からの経験談の有無については、家族から一回以上聞いたことがあるのは約3割（45人、29.2%）、友人、親戚からが約4割（61人、39.6%）となった（図表-25 参照）。

図表-24. 「超常現象の経験」の内訳



図表-25. 回答者周囲の超常現象の経験



さらに、回答者自身の経験、聞いた経験談を含め一回以上超常現象と接触したと答えた人に対し、それをどう感じるか調査した。すると図表-26のような結果となり、「そんなこともあるかもしれないと思う」という肯定的態度が最も強く（平均値 2.2）、否定的な「くだらないと思う」が最も弱かった（平均値 3.8）（1.0 に近づくほど意識が強い）。

図表-26. 「超常現象経験に対する態度」の度数分布表

	度数	平均値	標準偏差
面白いと思う	111	2.16	1.25
そんなこともあるかもしれないと思う	112	1.84	1.03
くだらないと思う	113	3.76	1.06
存在していてほしいと思う	112	3.08	1.25

※平均値は1.0に近づくほど強い意識がある。

3-5-2. 要因分析 ストレス

回答者の「超常現象の経験」と「新型コロナウイルス流行前後のストレス認識」の関連を示したのが、図表-27である。超常現象の経験に関わらずストレスが増えたと感じる傾向がみられたが、カイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく、超常現象の経験と新型コロナウイルス流行前後のストレス認識には、関連がないことが分かった。

図表-27. 「超常現象の経験」と「新型コロナウイルス流行前後のストレス認識」のクロス集計表

超常現象の経験	新型コロナウイルス流行前後のストレス認識					合計
	増えた (感じやすくなった)	どちらかというが増えた (やや感じやすくなった)	変わらない	どちらかというが減った (やや感じにくくなった)	減った (感じにくくなった)	
一度だけある	6 (31.6)	8 (42.1)	3 (15.8)	2 (10.5)	0(0.0)	19 (100)
複数回ある	9 (34.6)	8 (30.8)	8 (30.8)	0 (0.0)	1(3.8)	26 (100)
ない	37 (33.9)	31 (28.4)	33 (30.3)	5 (4.6)	3(2.8)	109 (100)
合計	52 (33.8)	47 (30.5)	44 (28.6)	7 (4.5)	4(2.6)	154 (100)

() 内は割合

$\chi^2 = 5.60, df = 8, N.S$

次に、「超常現象の経験」と「現在のストレス認識」の関連を分析した。結果は以下、図表-28の通り。超常現象の経験が【複数回ある】、【ない】と答えた人は自粛期間後のストレスは【変わらない】傾向が見られるのに対し、超常現象の経験が【一度だけある】と答えた人は、【どちらかというが増えた（やや感じやすくなった）】が多かった。ただし【一度だけある】の度数は少なく、信用に若干の疑念が残る。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は5%水準で有意であり、超常現象の経験と現在のストレス認識には、有意な関連が認められた。

図表-28. 「超常現象の経験」と「現在のストレス認識」のクロス集計表

超常現象の経験	現在のストレス認識					合計
	増えた (感じやすくなった)	どちらかという増えた (やや感じやすくなった)	変わらない	どちらかという減った (やや感じにくくなった)	減った (感じにくくなった)	
一度だけある	3 (15.8)	9 (47.4)	4 (21.1)	3 (15.8)	0(0.0)	19 (100)
複数回ある	4 (15.4)	4 (15.4)	11 (42.3)	6 (23.1)	1(3.8)	26 (100)
ない	24 (22.0)	13 (11.9)	53 (48.6)	18 (16.5)	1(0.9)	109 (100)
合計	31 (20.1)	26 (16.9)	68 (44.2)	27 (17.5)	2(1.3)	

() 内は割合

$\chi^2 = 17.77, df=8, p < .05$

上記の結果から、超常現象の経験とストレスの自己認識の関係を捉えなおさなければならぬと考えた。序論ではストレスと超常現象の経験の関係を考察する上で、ストレスが多いほど、超常現象の経験も増えるのではないかと仮定した。よって超常現象の経験も一度の場合と複数回の場合は一方向の大小関係にあると考えた。しかし調査の結果から、超常現象の経験に対し、一度だけあることと複数回あるということは、また別種の関係にあり、異なる意味を持つように推察する。

「超常現象の経験」によって「ストレス平均得点」に差があるのか検討するため、ストレス反応尺度による平均得点を従属変数として、回答者の超常現象の経験の分散分析を行った（図表-29 参照）。その結果、有意な差は認められなかった ($F(2,151)=1.94, N.S.$)。

図表-29. 「超常現象の経験」と「ストレス平均得点」の分散分析表

超常現象の経験	度数	平均値	標準偏差	F値	自由度	有意確率
一度だけある	19	1.15	0.69	1.94	2, 151	.148
複数回ある	26	1.48	0.75			
ない	109	1.19	0.69			

3-5-3. 要因分析 認知・関心

回答者の「超常現象の経験」と「超常現象の認知・関心」の関連を示したのが、図表-30である。超常現象の経験に関わらず認知はされていることが分かる。また、超常現象の経験があると答えた人は超常現象の認知・関心が高い傾向が見られる。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は1%水準で有意であり、超常現象の経験と超常現象の認知・関心には、有意な関連が認められている。

図表-30. 「超常現象の経験」と「超常現象の認知・関心」のクロス集計表

超常現象の経験	超常現象の認知・関心				合計
	知っているし、 興味がある	知っているが、 興味がない	知らないが、 興味がある	知らないし、 興味がない	
一度だけある	9 (47.4)	6 (31.6)	3 (15.8)	1 (5.3)	19 (100)
複数回ある	18 (69.2)	8 (30.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	26 (100)
ない	25 (23.1)	52 (48.1)	15 (13.9)	16 (14.8)	108 (100)
合計	52 (34.0)	66 (43.1)	18 (11.8)	17 (11.1)	153 (100)

() 内は割合 $\chi^2 = 24.92, df=6, p < .01$

3-5-4. 要因分析 信心深さ

回答者の「超常現象の経験」と「性格傾向 信心深さの自意識」の関連を示したのが、図表-31 である。超常現象の経験が【複数回ある】人ほど「人と比べて信心深い方だ」と考じている傾向がみられた。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は1%水準で有意であり、超常現象の経験と信心深さの自意識には、有意な関連が認められている。

図表-31. 「超常現象の経験」と「性格傾向 信心深さの自意識」のクロス集計表

超常現象の経験	人と比べて信心深い方だ					合計
	当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらとも いえない	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない	
一度だけある	1 (5.3)	5 (26.3)	12 (63.2)	0 (0.0)	1(5.3)	19 (100)
複数回ある	9 (34.6)	9 (34.6)	6 (23.1)	2 (7.7)	0(0.0)	26 (100)
ない	9 (8.3)	30 (27.8)	43 (39.8)	15 (13.9)	11(10.2)	108 (100)
合計	19 (12.4)	44 (28.8)	61 (39.9)	17 (11.1)	12(7.8)	153 (100)

() 内は割合 $\chi^2 = 23.45, df=8, p < .01$

3-5-5. 要因分析 メディア接触

回答者の「超常現象の経験」と「メディア接触」の関連を示したのが、図表-32 である。超常現象の経験があると答えた人は1日におけるメディアの利用時間が多い傾向があると予想したが、目立った傾向は認められなかった。

カイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく、超常現象の経験とメディア接触には、関連がないことが分かった。

図表-32. 「超常現象の経験」と「メディア接触」のクロス集計表

超常現象の経験	1日のメディア利用時間					合計
	6時間以上	4時間以上 6時間未満	2時間以上 4時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	
一度だけある	7 (36.8)	8 (42.1)	3 (15.8)	1 (5.3)	0 (0.0)	19 (100)
複数回ある	13 (52.0)	5 (20.0)	4 (16.0)	3 (12.0)	0 (0.0)	25 (100)
ない	41 (37.6)	31 (28.4)	35 (32.1)	1 (0.9)	1 (0.9)	109 (100)
合計	61 (39.9)	44 (28.8)	42 (27.5)	5 (3.3)	1 (0.7)	153 (100)

() 内は割合

$\chi^2 = 14.26, df = 8, NS$

3-5-6. 要因分析 その他

「超常現象の経験」との関連を調べるため、「性別」、「住まい形態」、「宗教所属の有無」とクロス集計分析を行った。しかし、いずれもカイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく、超常現象の経験とは、関連がないことが分かった（図表-33 参照）。

図表-33. 「超常現象の経験」とのカイ二乗検定結果

	カイ二乗検定結果	有意確率
「性別」	$\chi^2 = 6.73, df = 4, N.S$.151
「住まい形態」	$\chi^2 = 2.40, df = 4, N.S$.663
「宗教所属の有無」	$\chi^2 = 7.24, df = 4, N.S$.124

4.まとめ・考察

今回、超常現象とストレスの関係をコロナ禍におけるストレスとの分析を行うことで関係を調査した。しかし超常現象の認知、関心及び経験は、いずれもストレスとの関連を認められなかった。これは本稿の結論として揺るがないものである。しかし、設問の妥当性の再検討、標本数の問題など考慮されるべき要因は様々あり、これについては反省と今後の課題としたい。

結果の考察としてはまず、新型コロナウイルス流行下、いわゆるコロナ禍におけるストレスは、個人の差はあれ、基本的には流行以前と比較して増えていることが分かった。ただし過度なストレスを感じているとみられる人は全体的に少なかった。本項ではストレスの要因がコロナ禍の、具体的に何であるかについては調査しなかったが、数字としてコロナ禍のストレス的影響が確認できたのは有意義であったと考える。また、性格傾向や感染予防への態度等の結果から、一般世俗的な価値観を有する標本像がみてとれ、縁起や迷信といった非科学的な存在を一切否定しているわけではなさそうであったことなど、興味深い結果も得られた。超常現象の認知、関心についてはメディア接触との関連が認められ、インターネットやマスコミ、SNS の影響力の大きさを示唆している。超常現象の経験に対しては、メディア接触や性別、宗教所属の有無などとは関連は認められなかったが、信心深さの自意識や、超常現象の認知、関心との関連が認められた。超常現象の認知、関心の高さは経験に関連がなかったことから、既に超常現象を認知、関心を持っていることが、経験と関わりがあるのではないかと推察する。幽霊は脳で見えるのか、はたして見たいから見えたのか。この点についてはさらなる研究が求められるだろう。

5.脚注

1. 朝日新聞デジタル「コロナ禍の生活変化「ストレス増」53% 朝日世論調査」
2. J-CAST ニュース「PCR 検査所に押し掛けた「マスク外そう」デモ集団その意図は？周辺企業も困惑」
3. 鈴木伸一、嶋田洋徳、三浦正江、片柳弘司、右馬埜力也、坂野雄二
「新しい心理的ストレス反応尺度（SRS-18）の開発と信頼性・妥当性の検討」

6.引用・参考文献

- ・朝日新聞デジタル「コロナ禍の生活変化「ストレス増」53% 朝日世論調査」(2021)
<https://www.asahi.com/articles/ASP1676NJNDLUZPS009.html>
(2021年2月11日アクセス)
- ・警視庁「令和2年の月別自殺者数について(12月末の暫定値)」(2021)
「令和元年中における自殺の状況 資料」(2021)
<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/jisatsu.html>
(2021年2月10日アクセス)
- ・厚生労働省「オープンデータ 陽性者数」(2021)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>
(2021年2月9日アクセス)
- ・J-CAST ニュース「PCR検査所に押し掛けた「マスク外そう」デモ集団その意図は？周辺企業も困惑」
<https://news.yahoo.co.jp/articles/e21d1ac14cc92a667eba3ec330b4b765a00651f8>
(2020年12月17日)
- ・渡辺 浩希「日本の宗教人口-2億と2-3割の怪の解-」(2011)
- ・鈴木伸一、嶋田洋徳、三浦正江、片柳弘司、右馬埜力也、坂野雄二
「新しい心理的ストレス反応尺度(SRS-18)の開発と信頼性・妥当性の検討」(1997)
- ・吉川茂「超常現象を信じることについての基礎的研究」(1996)

7.付録・調査票

「コロナ禍におけるストレスと超常現象」

B8P51080 樋口大樹

この調査は、文教大学の「メディア調査研究法C」という授業の一環としてコロナ禍におけるストレスと超常現象について調べるためのものです。この調査で集めた回答は個人が特定できない形で、授業内での分析、発表にのみ使用させていただきます。また目的以外にデータを使用することは一切ございません。

調査についてのご質問・ご不明な点などございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

Email:b8p51080@bunkyo.ac.jp(調査代表：樋口大樹（文教大学情報学部メディア表現学科3年）)

はじめに、あなた自身についてお尋ねします。

以下の事柄について、それぞれ最も当てはまると思う項目や選択肢の番号に1つ○をつけてください。

問 1-1 あなたの性別を教えてください。

1. 男(32.5%) 2. 女(66.2%) 3. その他(0.6%)

問 1-2 あなたの学年を教えてください。

1. 1年生(36.4%) 2. 2年生(22.7%)
3. 3年生(26.0%) 4. 4年生(14.9%)

問 1-3 あなたの出身地を教えてください。

- | | | |
|---------------|-----------------|---------------|
| 1. 北海道(0.0%) | 2. 青森県(0.0%) | 3. 岩手県(0.0%) |
| 4. 宮城県(3.9%) | 5. 秋田県(0.0%) | 6. 山形県(0.6%) |
| 7. 福島県(0.6%) | 8. 茨城県(4.5%) | 9. 栃木県(4.5%) |
| 10. 群馬県(4.5%) | 11. 埼玉県(28.6%) | 12. 千葉県(7.1%) |
| 13. 東京都(7.8%) | 14. 神奈川県(20.1%) | 15. 新潟県(3.9%) |
| 16. 富山県(0.0%) | 17. 石川県(0.0%) | 18. 福井県(0.0%) |
| 19. 山梨県(2.6%) | 20. 長野県(6.5%) | 21. 岐阜県(0.0%) |

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| 22. 静岡県(1.9%) | 23. 愛知県(0.6%) | 24. 三重県(0.0%) |
| 25. 滋賀県(0.0%) | 26. 京都府(0.0%) | 27. 大阪府(0.6%) |
| 28. 兵庫県(0.0%) | 29. 奈良県(0.0%) | 30. 和歌山県(0.0%) |
| 31. 鳥取県(0.0%) | 32. 島根県(0.0%) | 33. 岡山県(0.0%) |
| 34. 広島県(0.0%) | 35. 山口県(0.0%) | 36. 徳島県(0.0%) |
| 37. 香川県(0.0%) | 38. 愛媛県(0.0%) | 39. 高知県(0.0%) |
| 40. 福岡県(0.0%) | 41. 佐賀県(0.0%) | 42. 長崎県(0.6%) |
| 43. 熊本県(0.0%) | 44. 大分県(0.0%) | 45. 宮崎県(0.0%) |
| 46. 鹿児島県(0.0%) | 47. 沖縄県(0.6%) | |

問 1-4 あなたの現在の住まい状況を教えてください。

※「現在」はおおよそ「一ヶ月以内」のことを指します。一時的に実家などへ帰省している場合は「実家暮らし」とお答えください。

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 実家暮らし(78.6%) | 2. 一人暮らし(20.1%) |
| 3. その他（シェアハウス、共同部屋など）(1.3%) | |

問 1-5 あなたの現在生活する住まいでは、普段何人が生活していますか。

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 4人以上(53.2%) | 2. 3人(22.1%) |
| 3. 2人(5.8%) | 4. 1人(18.8%) |

問 1-6 あなたは普段、SNS やテレビ、動画視聴、インターネットを一日何時間程度利用しますか。普段の平均的な一日を想定してお答えください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 6時間以上(39.6%) | 2. 4時間以上6時間未満(28.6%) |
| 3. 2時間以上4時間未満(27.3%) | 4. 1時間以上2時間未満(3.2%) |
| 5. 1時間未満(0.6%) | 6. 0時間（利用しない）(0.0%) |

問 1-7 あなた自身について、それぞれ最も当てはまると思うものを選んでください

	平均値	当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらとも いえない	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
1.トレンドや流行が気になる	(2.58)	1	2	3	4	5
2.新しいものには目がない	(3.06)	1	2	3	4	5
3.知らないことを知るの楽しい	(1.81)	1	2	3	4	5
4.人と比べてストレス耐性はある方だ	(2.97)	1	2	3	4	5
5.普段からリラックスできている	(2.70)	1	2	3	4	5
6.将来が不安だ	(1.72)	1	2	3	4	5
7.世の中は悪い方向へ進んでいると思う	(2.36)	1	2	3	4	5
8.人と比べて信心深い方だ	(2.73)	1	2	3	4	5
9.何か思いついても一旦考えてから口に出す	(2.57)	1	2	3	4	5
10.物事をよく観察して分析することが好きだ	(2.55)	1	2	3	4	5
11.人から聞いた話よりも自分で経験したことの方が重要だ	(1.99)	1	2	3	4	5
12.普段から寂しさを感じる	(2.65)	1	2	3	4	5

つぎに、新型コロナウイルスの影響についてお尋ねします。

以下の事柄について、それぞれ最も当てはまると思う項目や選択肢の番号に1つ○をつけてください。

問2-1 あなたは新型コロナウイルス流行前と後では、感じるストレスに変化はありましたか。「**新型コロナウイルス流行前**」とはおおよそ「**昨年**から**今年2月以前**」を指します。

平均値	増えた (感じやすくなった)	どちらかという増えた (やや感じやすくなった)	変わらない	どちらかという減った (やや感じにくくなった)	減った (感じにくくなった)
ストレスは・・・ (2.12)	1	2	3	4	5

問2-2 あなたは現在、自粛期間中と比べて感じるストレスに変化はありましたか。「**自粛期間中**」とはおおよそ「**今年4月から5月末まで**」を指します。

平均値	増えた (感じやすくなった)	どちらかという増えた (やや感じやすくなった)	変わらない	どちらかという減った (やや感じにくくなった)	減った (感じにくくなった)
ストレスは・・・ (2.63)	1	2	3	4	5

問2-3 以下の項目について、それぞれ最も当てはまると思うものを選んでください。

平均値	当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらとも いえない	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
1. 普段からマスク着用をするようになった (1.10)	1	2	3	4	5
2. マスクを着用して過ごすのは大変だ (2.75)	1	2	3	4	5
3. 手洗いうがいを徹底している (1.55)	1	2	3	4	5
4. うがい薬を利用する機会が増えた (3.89)	1	2	3	4	5
5. アルコール消毒液が設置されていれば毎回利用する (1.65)	1	2	3	4	5
6. 納豆を食べる機会が増えた (3.96)	1	2	3	4	5
7. バナナを食べる機会が増えた (4.13)	1	2	3	4	5
8. ヨーグルトを食べる機会が増えた (3.74)	1	2	3	4	5
9. 毎日の体温検査 (検温) が必要だ (3.12)	1	2	3	4	5
10. 体温検査 (検温) は面倒くさい (2.33)	1	2	3	4	5
11. 意識的に運動をするようになった (3.71)	1	2	3	4	5

問2-4 以下の質問について、あなたの新型コロナウイルス流行後から現在までの期間の状態で、それぞれ最も当てはまるものを選んでください。

	平均値	当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
1. 怒りっぽくなる	(0.92)	3	2	1	0
2. 悲しい気分だ	(1.36)	3	2	1	0
3. 何となく心配だ	(2.11)	3	2	1	0
4. 怒りを感じる	(0.99)	3	2	1	0
5. 泣きたい気持ちだ	(0.99)	3	2	1	0
6. 感情を抑えられない	(0.68)	3	2	1	0
7. くやしい思いがする	(0.92)	3	2	1	0
8. 不愉快だ	(1.05)	3	2	1	0
9. 気持ちが沈んでいる	(1.44)	3	2	1	0
10. いらいらする	(1.16)	3	2	1	0
11. いろんなことに自信がない	(1.66)	3	2	1	0
12. 何もかもがいやだと思う	(1.36)	3	2	1	0
13. よくないことを考える	(1.44)	3	2	1	0
14. 話や行動がまとまらない	(1.03)	3	2	1	0
15. なぐさめて欲しい	(0.92)	3	2	1	0
16. 根気がない	(1.42)	3	2	1	0
17. ひとりでいたい気分だ	(1.10)	3	2	1	0
18. 何かに集中できない	(1.69)	3	2	1	0

つぎに、あなたの考え方・感じ方等についてお尋ねします。

以下の事柄について、それぞれ最も当てはまると思う項目や選択肢の番号に1つ○をつけてください（問3-3は除きます）。

問3-1 以下の項目について、それぞれ最も当てはまると思うものを選んでください。

	平均値	当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらとも いえない	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
1. 毎年お正月は神社へ初詣に行く	(2.33)	1	2	3	4	5
2. 心霊スポットなどへ肝試しに行ったことがある	(4.18)	1	2	3	4	5
3. パワースポットなどに出かけることがある	(3.92)	1	2	3	4	5
4. 墓地ではなんとなく緊張してしまう	(3.12)	1	2	3	4	5
5. 暗い部屋にいると自分以外の存在を感じることもある	(4.02)	1	2	3	4	5
6. たまに何も無い空間から視線を感じることもある	(3.77)	1	2	3	4	5
7. 勝負の前はできる範囲でゲンを担ぎたい	(2.91)	1	2	3	4	5
8. くじを引く時は運勢の良い時にする	(4.03)	1	2	3	4	5
9. おみくじがよくない結果だと気になってしまう	(3.29)	1	2	3	4	5
10. 北枕で寝ることに抵抗がある	(3.56)	1	2	3	4	5
11. 四つ葉のクローバーを見つげられると嬉しい	(1.82)	1	2	3	4	5
12. 誰かに噂されていると本当にくしゃみが出ると思う	(3.68)	1	2	3	4	5

問 3-2 あなたは現在、信じている宗教などはありますか。

1. はい(3.9%)
2. いいえ(85.7%)
3. 分からない(9.1%)

問 3-3 あなたの家族や友人に宗教を信じている方はいますか。次のうち当てはまるものを“全て選んでください”。

1. 家族に信仰している人がいる (14.9%)
2. 友人に信仰している人がいる (12.3%)
3. 周囲に信仰している人はいない(72.7%)

さいごに、超常現象についてお尋ねします。

以下の事柄について、それぞれ最も当てはまると思う項目や選択肢の番号に1つ○をつけてください。

問 4-1 あなたは一般に「超常現象」あるいは「オカルト」と呼ばれるものについて知っていますか。

1. 知っているし、興味がある (33.8%)
2. 知っているが、興味がない (42.9%)
3. 知らないが、興味がある (11.7%)
4. 知らないし、興味がない (11.0%)

★次のページにお進みください。

問 4-2 あなたは以下のような「超常現象」に対してどの程度気になりますか。

※もし、ご存じない項目がありましたらその項目は回答せずに次の項目へ移ってください。

	平均値	気になる	どちらかという 気になる	どちらとも いえない	どちらかという 気にならない	気にならない
1.幽霊	(2.73)	1	2	3	4	5
2.ポルターガイスト	(3.17)	1	2	3	4	5
3.心靈写真	(3.21)	1	2	3	4	5
4.人魂・火の玉	(3.39)	1	2	3	4	5
5.靈感・靈視	(2.96)	1	2	3	4	5
6.神隠し	(3.11)	1	2	3	4	5
7.呪い・祟り	(3.22)	1	2	3	4	5
8.コックリさん (降霊術)	(3.48)	1	2	3	4	5
9.魔法・魔術	(2.85)	1	2	3	4	5
10.死後の世界 (あの世・天国・地獄)	(2.22)	1	2	3	4	5
11.転生 (生まれ変わり)	(2.46)	1	2	3	4	5
12.河童 (かっぱ)	(3.81)	1	2	3	4	5
13.鬼	(3.72)	1	2	3	4	5
14.座敷童 (ざしきわらし)	(3.39)	1	2	3	4	5
15.ツチノコ	(3.71)	1	2	3	4	5
16.小人 (こびと)	(3.22)	1	2	3	4	5
17.超能力 (念力・テレパシーなど)	(2.90)	1	2	3	4	5
18.ドッベルゲンガー	(3.20)	1	2	3	4	5
19.UFO (未確認飛行物体・現象)	(3.09)	1	2	3	4	5
20.宇宙人 (地球外生物)	(3.02)	1	2	3	4	5
21.予知夢	(2.69)	1	2	3	4	5
22.予言・預言	(3.00)	1	2	3	4	5
23.タイムスリップ・タイムトラベラー (未来人)	(2.82)	1	2	3	4	5
24.地底人・地底世界	(3.66)	1	2	3	4	5
25.ネッシー	(3.86)	1	2	3	4	5
26.超古代文明 (アトランティス文明など)	(3.32)	1	2	3	4	5
27.人工地震	(3.71)	1	2	3	4	5
28.アマビエ	(3.82)	1	2	3	4	5
29.口裂け女	(3.97)	1	2	3	4	5
30.神 (神様)	(2.81)	1	2	3	4	5

問 4-3 あなたはこれまで実際に超常現象を見たり、聞こえたり、あるいはそれに近い出来事を経験したことはありますか。霊的な現象など、あなた自身の感覚で、憶測や間違いであっても構いません。

1. 一度だけある(12.3%) 2. 複数回ある(16.9%) 3. ない(70.8%)

問 4-4 あなたはあなたの家族が経験したという超常現象の話を聞いたことはありますか。あなたが聞いた家族の話 (噂・経験談) であれば、憶測や間違いであっても構いません。

1. 家族のうち一人が一度だけある (8.4%)
 2. 家族のうち一人が複数回ある (11.7%)
 3. 家族のうち複数人が一度、あるいは複数回ある (9.1%)
 4. ない (70.8%)

問 4-5 あなたはあなたの友人や親戚が経験したという超常現象の話を聞いたことはありますか。あなたが聞いた話（噂・経験談）であれば、憶測や間違いであっても構いません。

1. 友人や親戚から一度だけある (14.3%)
2. 友人や親戚から複数回ある (25.3%)
3. ない (60.4%)

次の質問は、あなた自身やあなたの家族、友人が経験した、または話を聞いたと答えた方のみお答えください。

上記3つの質問全てに「ない」と答えた方は以上になります。ご協力ありがとうございました。

問 4-6 あなたはあなた自身の経験やあなたの家族、友人の話を聞いて、どのように感じますか。それぞれ最も当てはまるものを選んでください。

	平均値	当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらとも いえない	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
1.面白いと思う	(2.16)	1	2	3	4	5
2.そんなこともあるかもしれないと思う	(1.84)	1	2	3	4	5
3.くだらないと思う	(3.76)	1	2	3	4	5
4.存在していてほしいと思う	(3.08)	1	2	3	4	5

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。